

# 協会からのお知らせ

## ..... 非接触ICカード普及センターCLICのご案内 .....

「非接触ICカード<sup>(注1)</sup>普及センターCLIC (Contact-Less IC card deployment center)」は、当協会が設立した非接触ICカードシステムの普及推進を行う組織です。国内のカードメーカ、リーダライタメーカ、カード発行機メーカの協力を得て運営しています。

「CLIC」では、次の業務を行っています。

- ・ 公的分野を中心として利用される非接触ICカード<sup>(注2)</sup>の発行(住民基本台帳カード等)
- ・ ICカードとリーダライタとの互換性の検証
- ・ ICカード応用システムに関する技術コンサルティング

### 1. 非接触ICカードの発行業務

市区町村、法人等からの委託により、国際規格に準拠した非接触近接型ICカード(タイプB)の発行を行います。ICカードの発行業務には、大別して「カード製造者」が行う一次発行と、「カード発行者」が個人データを書込む二次発行があり、「CLIC」では、主として二次発行を行います。「CLIC」では、ICカードの調達代行を含めたカード発行業務だけでなく、市区町村が調達したICカード(当センターにて互換性が確認されたカード)をお預かりしての発行業務も行います。住民基本台帳カードについては、全国の希望する市区町村を対象とし、当協会が準備した発行仕様メニューの中から、市区町村が選択したカードを受託発行します。

### 2. 互換性検証業務

非接触ICカードや非接触リーダライタなどのICカードシステムの構成機器に関するハードウェア、ソフトウェア両面からの互換性検証(電波特性試験やクロステストによる機能試験)を、開発企業からの依頼に応じて実施します。互換性が認定された製品については、公表します。

### 3. 技術コンサルティング業務

非接触ICカード、リーダライタ、カード発行機などを導入する際の技術的な問題を解決するため、また、標準仕様の普及活動のために、これまで培った技術やノウハウを活用して、技術的なコンサルティングを行います。

当協会では、住基カード関連システムで活用されるICカード、リーダライタ、カード発行機、アプリケーションシステム(証明書発行システム等)などに対して、現地調査・実機テスト・関係者ミーティングを実施し、互換性を確保するための具体的な解決策を提示します。

### コンサルティングサービスの実施プロセス例

- (1)住基カード関連システムのリストアップ作業
- (2)住基カード関連システムの現地調査
- (3)地方公共団体様向け現状報告会開催
- (4)住基カード関連システム互換性検証テストの実施
- (5)地方公共団体向けコンサルティング作業

(注1)非接触ICカードとは

非接触ICカードは、カードリーダと接触することなしにデータの通信が行えるカードです。カード内部にはICチップと、カードリーダとの通信やカードへの電源供給を行うためのアンテナコイルが埋め込まれています。非接触ICカードの特長は、「カード表面全体に印刷できる。汚れ、ほこりなどに強い。リーダライタから数cm離れてデータ交換が可能」です。

(注2)公的分野における非接触ICカード仕様について

政府では、「公的分野における非接触ICカードの普及に関する関係府省連絡会議」において、国民の利便性の向上、行政コストの削減を図るため、行政機関が発行するICカードに関して、一枚化が可能となるよう仕様を共通化することを基本原則としています。

また、技術仕様は、ISO/IEC14443タイプB非接触インタフェースを利用していくことで統一されていますので、今後の公的分野のICカードインフラは非接触型ICカード(タイプB)が標準となります。

# 協会からのお知らせ

## 「業務・システム最適化計画」策定研修のご案内

予算効率の高い簡素な政府の実現に向けITによる業務改革を推進するため平成16年2月のCIO連絡会議で府省横断的に取り組む、あるいは各府省において個別に取り組む最適化計画の策定対象となる72分野の業務・システムが選定されました。

このように、政府が推進する電子政府構築計画の実現に向け、EAを基礎とした「業務・システム最適化計画」が今年度より本格的に展開されますが、今後各府省が行うIT資源調達は「業務・システム最適化計画」に基づき行われることになると考えられます。

従ってこれに係る知識およびスキルを持った人材が受注企業側に存在することが強く求められています。本研修では政府の「業務・システム最適化計画策定指針」(ガイドライン)に基づき、機能分析、情報分析、環境分析についての知識・技術を体系的に習得することを目的に実施します。

日程(4日間、時間9:30~17:30)

【6回目】2004年11月30日(火)~12月3日(金)  
(募集中)

研修コース目標と内容

### 【コース目標】

電子政府構築計画に基づく、「業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)第2版」の内容について習得します。  
最適化計画の策定に必要な機能分析、情報分析、環境分析についての知識およびスキルを習得します。  
コース終了後修了証を発行致します。

研修内容予定(都合により一部変更あり)

	A M	P M
1 日 目	<b>【業務・システム最適化計画について】</b> 電子政府構築計画と業務・システム最適化計画の概要 業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)について (総務省行政管理局)	<b>【政策・業務体系(機能分析)】</b> 機能構成図(DMM) 機能情報関連図(DFD)
2 日 目	<b>【政策・業務体系(機能分析)】</b> 業務処理の組み替え	<b>【政策・業務体系(情報分析)】</b> 業務流れ図(WFA) 情報抽象化表(DAM)
3 日 目	<b>【政策・業務体系(情報分析)】</b> 情報体系整理図(UMLクラス図)	<b>【データ体系、適用処理体系、技術体系】</b> 実体関連図(ERD) 情報資産評価表(IEM)
4 日 目	<b>【環境分析】</b> 業務環境分析(SWOT分析)	<b>【環境分析】</b> 主要課題抽出 見直し方針

研修内容の詳細については当協会のホームページをご覧ください。 URL <http://www.nmda.or.jp/>

# 協会からのお知らせ

## .....「業務・システム最適化計画」策定研修のご案内.....

### 会場

株式会社富士ゼロックス総合教育研究所・六本木  
セミナールーム

住所：〒106-0032 港区六本木3-1-1  
ティーキューブ14階

電話：03-5574-1431 FAX：03-5574-1500

地図URL：<http://www.fxli.co.jp/company/access.html>

(当団地下鉄南北線「六本木一丁目駅」1番出口より地下通路直結)

### 主催

財団法人ニューメディア開発協会

### 参加費

168,000円(お一人様・税込)教材費込み  
1回分(4日間)

### 定員

36名

### 参加対象

各府省が発注する業務・システム最適化計画  
策定作業の受注を目指す方。  
各府省の情報システム調達の受注を目指す方。

### 参加条件

情報システム企画、調達、開発についての経  
験・知識を有すること。

### 事前学習

「業務・システム最適化計画策定指針(ガイドラ  
イン)(第2版平成16年2月10日)」を熟読して下

さい。次のURLよりダウンロードできます。  
<http://www.e-gov.go.jp/doc/guideline.html>

### 申込締切

定員になり次第締切らせて頂きます。

### 申込方法

電子メールでお願いいたします。メールを受領後、  
受講ご案内とご請求についてのメールを送ります。  
お申し込みされた方が参加不可能な場合には、代  
理の方の参加が可能です。但し、受講開始後の変  
更は出来ません。必要記入内容は下記の通りです。

To：semin@nmda.or.jp宛

Subject：「業務・システム最適化計画策定」  
研修参加申込

### 申し込みコース

お名前(漢字とふりがな)

会社・団体名 \*所属役職

住所：〒

TEL番号、FAX番号

電子メールアドレス

請求書：必要・必要なし

この研修を何で知りましたか(下記は記入例です)

ニューメディア開発協会賛助会員宛案内、メ  
ールニュース、雑誌、新聞、インターネット  
検索、知人の紹介、職場で紹介、当配布パン  
フレット、その他(具体的に記入ください)

### お問い合わせ先：

財団法人ニューメディア開発協会  
開発グループ

担当：山本勝己、飯田次男、松原伸幸、大久保貴世  
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビル23階

Tel：03-3457-0672 Fax：03-3451-9604

E-mail：semin@nmda.or.jp

### 【編集後記】

20周年記念号を取りまとめる準備段階として、最近10  
年間に実施したプロジェクトを、事業分野別に表計算ソフト  
で整理しました。電子データの無い時期の記事はスキャナ  
ーとOCRソフトで入力し、電子データ(主にPDF)のある  
記事はそのまま一部を転用しました。最近の漢字OCRソフト  
の進歩には驚きです。文書レイアウトも自動判別し、  
95%以上の確率で漢字データを読み込むことが出来まし  
た。さらに、7年前から蓄積してきた各種のPDFデータが役

に立ちました。今号は、最近の実務的なITを活用した小さ  
な成果物でもあります。10年後の、30周年記念号編集時  
の情報環境は、どのように変わっているのでしょうか？

今年は、日本に上陸または近づいた台風の多い年になりま  
した。南の高気圧と北の高気圧の狭間で、台風の通り道が日  
本付近に限定された結果でしょう。大自然(地球)のいとな  
みをあらためて感じるとともに、被害に会われた方々の一日  
も早い復旧をお祈り申し上げます。(TI)